

## 2003年度 事業計画

### 【はじめに】

阪神・淡路大震災から丸8年が過ぎ9年目に入った。この間被災地における暮らしの再建に取り組む中でさまざまな経験や教訓をもとに、「痛みの共有」ができることから、この地からは海外における災害被災地の救援にもいち早く出かけている。2002年1月17日に発足した私たちCODEは、これまでのこうした取り組むから学びつつ、経験の集積と次世代への継承を目的とし、「災害救援の思想と文化」の構築を目指し、2年目の活動に取り組む。

さて、一昨年の「9.11」を境に、国際社会ではこれまで以上にテロや紛争が絶えない。こうした情勢下で、CODEがかかわる災害救援といってもこれまでのような「自然災害」から「紛争による災害」が多発することが予測されるため、その分野に対する学習や研究および実践が求められている。阪神・淡路大震災の主たる自治体である兵庫県においても、今年度から「国際防災・人道援助」を重点課題として施策化しているが、国際社会における情勢を見ると極めて当然と言える。こうした情勢下で、一方私たち市民やNGOとしての役割に期待されるところが大きい。

CODEとしては、広く市民のみならずとともに英知を寄せ合い、取り組みを重ねながら「救援の文化」を国際社会に広めたい。ともすれば「国際協調」の装置が働かない現実の中で、それに代わる「合意形成」のしくみとして、市民やNGOが築くことができるのは「人間としての共感」による「支えあいの連鎖」ではないだろうか。

阪神・淡路大震災という大災害に見舞われた被災地だからこそできる「災害救援」という取り組みをさらに充実あるいは拡充するためにも、2003年度の事業を実施する。

### 【事業概要】

- 海外災害（地）への救援活動事業
- 人材育成事業
- 災害関連情報の収集及び発信事業
- 国内外のネットワーク構築事業
- 市民による災害救援に関する調査・研究事業
- 市民による災害救援に関する啓発・啓蒙及び広報活動事業
- CODE 基金事業
- その他本会の目的達成のために必要な事業

## 【事業内容】

### ■海外災害（地）への救援活動事業

#### 【イラン地震プロジェクト 02' 6/26~】

「リフォームシステム 21」などの救援活動を後方から支援する。

#### 【アフガニスタン救援プロジェクト 02' 7/17~】

現地 NGO「Shelter For Life(SFL)」をパートナーとして、継続した1コイン募金活動や、情報収集を行う。具体的支援内容は、具体的には小学校建設（北部のナハリン）、生活協同組合の導入を前提にしたぶどう畑の再建事業（ショマリプレーン）、未亡人を対象にした女性のためのしごとづくり（カブール郊外）、地方の大工の技術研修などである。

#### 【中国新疆ウイグル地震プロジェクト 03' 2/25~】

神戸華僑総会と連携して被災地巴楚（バチュ）県にある、倒壊した吾斯塘博依（ウスタンボイ）小学校小学校（生徒数：約 400 名）の建設支援（建設費用：約 1,000 万円）を行うための、募金活動ならびに情報収集活動を行う。

#### 【被災地クラフトの販売】

救援プロジェクトの財政基盤を支えるために被災地のクラフトを販売する。

#### 【「KOBE クラフト・まけないぞう」の販売】

阪神・淡路大震災後、被災者の自立・しごとづくり事業として生まれた「まけないぞう（被災地 NGO 協働センター）」を、CODE の災害救援グッズとして取り扱う。

### ■人材育成事業

#### 【NGO ことはじめ】

本セミナーは入門セミナーと位置づけ、NGO の総論的話から具体的な災害救援や国際理解を深めるための講座を行う。

<開催予定：上期、下期ともに5回開催>

#### 【CODE 寺子屋】

中級編的なセミナーと位置づけ、講師は CODE 代表、副代表とする。なお、この

「CODE 寺子屋」については、講演録をまとめ出版を前提に開催し、「CODE ブックレット」として積極的にアピールする。

<開催予定：4回>

#### 【専門セミナー】

前年度は、医療・保健の分野のみに終わった。今年度はさらに福祉の分野を加え、専門セミナーとして開催する。またスタッフ研修という位置づけのもと、徐々に高次の研修をも取り入れ受講する。

<開催予定：5回>

#### 【出張セミナー（ミニ災害研究会）の開催】

社協などとの連携のもと、各市区町村レベルでのミニ講座を企画、出前セミナーとして展開する。また、京都など学生の多い地域での出張セミナーなどを企画・実施を行う。

### ■災害関連情報の収集及び発信事業

#### 【HPによる情報発信】

特に災害時の多様な現地情報を発信することに工夫をし、特に英語による発信を充実させ、英語版ホームページを媒介として海外とのネットワークを築いていく。また、UNOCHA リリーフウェブの仮訳発信も強化し、情報センターとしての機能を充実させる。

### ■国内外のネットワーク構築事業

#### 【私が描く！地球のくらし方～知って楽しい〇〇編～】

在神戸の外国人を中心に講師として招き、自国の歴史、生活習慣、文化などについて講義形式だけではなく、講師の方のお店などにも出向いて開催する。

<開催予定：6回開催>

#### 【フィールド研修（被災地交流）事業】

海外における被災地との交流を図る。スタディー・ツアーのような形式で、CODE関係者のみならず市民にも呼びかけ、希望者をつのり一定数が揃えば実施する。

<開催予定：不定期開催>

#### 【関係機関の開催するセミナー、シンポジウムなどへの積極参加】

スタッフの研修の一環として、可能な限り積極参加をし、交流を行う。

#### 【フード・バザール・アジア編】

県内各所で、その国出身の方を講師として招き、料理教室として開催する。

<開催予定>

### ■市民による災害救援に関する調査・研究事業

#### 【CO-OP 研究会】

アフガニスタン救援プロジェクトのために発足したが、被災地のくらしの再建に必要な装置である「生活協同組合（＝CO-OP）」についての研究・学習を今年度も継続して続ける。

<開催予定：不定期開催>

#### 【国際機関、NGO への訪問、視察の実施】

### ■市民による災害救援に関する啓発・啓蒙及び広報事業

#### 【国際理解促進のための教材づくりを準備】

小・中・高校生の国際理解に対する関心が高いことから、学生さらには現職の教員などにも参画して頂き、教材づくりのための委員会を発足し準備に取り組む。

#### 【CODE レターの発行】

今年度は毎月発行を目指し、発行部数も 500 部を目標にする。

#### 【「CODE ブックレット」の発行及び販売】

昨年度作成した「Kick Off セミナー」ブックレットを継続して販売する。また、「CODE 寺子屋」で講演していただく代表・副代表の講演内容を中心に出版する。

#### 【CODE グッズの販売強化】

初年度に作成した「CODET シャツ」の販売促進に努める。また、T シャツの他に、適当なグッズの必要性が出てくれば、その都度協議し、必要とあらば企画・作成する。

#### 【各種宣材の作成】

宣材として創意工夫を凝らし、注目されるようにする。必要であれば、現リーフレットの手直しもする。

## ■CODE 基金

### 【CODE 基金の確立】

準備委員会を設立し、充分の議論と協議を重ね、しかるべき手続きを経て運営委員会に提案する。

## ■その他本会の目的達成の為に必要な事業

### 【CODE 版スフィアプロジェクトの作成】

現状の CODE ガイドラインの見直しを含め、CODE 版スフィアプロジェクトを作成する。

### 【国際会議の開催】

阪神・淡路大震災 10 周年目に入る 2004 年 1 月 17 日以降、2003 年度内に市民と NGO の「防災」国際フォーラムとの共催での「阪神・淡路大震災 10 周年国際会議」を開催する。

以 上